

new born 荒井良二

いつも しらないところへ たびするきぶんだった



新作《new born 旅する名前のない家たちを ぼくたちは古いバケツを持って追いかけて 湧く水を汲み出す》
制作風景

開催趣旨

2005 年に児童文学のノーベル賞と称されるアストリッド・リンドグレン記念文学賞を日本人として初めて受賞し、「斬新、大胆、気まぐれ、全く独自の発光力を持つ画家」と世界的な評価を受けた荒井良二さん（1956－）は、絵本作家であり、同時に、イラストレーション、絵画、音楽、舞台美術と、幅広く活動を展開するアーティストです。

絵本やイラスト、音楽など、様々なジャンルの壁を超越して飛び込んだ先の、
ルールも分からない「知らないところ」で、それでも自分なりの仕事をする。

こうした荒井さんの創作に向かう姿勢は、チャレンジングで、かつ困難や制約をも楽しむような、まさしく旅をする時の前向きな気持ちに溢れたものです。

「new born いつも しらないところへ たびするきぶんだった」と題した本展では、旅をするような気分で日々あらたに作品を生み出してきた荒井さんの創作活動を、新作や過去作を織り交ぜて紹介します。

展覧会で出会うのは、大きな絵画や絵本原画、イラストレーション、そして新作となる立体作品や小さなガラクタたち。これらは、絵を描くのが好きという、荒井さんの創作の根底にある気持ちを物語っています。荒井さんは、これまでどんなところを旅して、次はどこへ出かけていくのか。ここからまた新しい荒井良二さんが誕生＝new born する展覧会を、一緒に体感しましょう。

new born 荒井良二

いつも しらないところへ たびするきぶんだった

展覧会名

new born 荒井良二

いつも しらないところへ たびするきぶんだった

会期

令和 5 (2023) 年 7 月 1 日 (土) ～ 9 月 3 日 (日) 休館日: 7 月 3 日 (月)、8 月 7 日 (月)

会場

横須賀美術館 (神奈川県横須賀市鴨居 4 - 1)

主催

横須賀美術館、朝日新聞社

協力

偕成社、積水ハウス株式会社、宮本武典

観覧料

一般 1,300 (1,040) 円、高大・65 歳以上 1,100 (880) 円 中学生以下無料

* () 内は 20 名以上の団体料金 *高校生 (市内在住または在学に限る) は無料

*身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付添の方 1 名様は無料

関連事業 *詳細は HP をご覧ください。

ワークショップ、ライブ、学芸員によるギャラリートーク

お問い合わせ 横須賀美術館 〒239-0813 横須賀市鴨居 4-1

○ホームページ: <https://www.yokosuka-moa.jp> e-mail: kouhou@city.yokosuka.kanagawa.jp

○取材・画像提供に関すること 総務係: 安陪 電話 046-845-1211

○展示内容に関すること 担当学芸員: 中村、立浪 電話 046-845-1212

●見どころ1 絵本や書籍原画の細部までじっくりと



『あさになったのでまどをあけますよ』
原画、個人蔵

おもわず口ずさみたくなるようなリズムカルな文体やオノマトペ、あたたかく鮮やかな色彩、描けそうで描けない独特の線やかたち、そして心にふっと灯りがともるような読後感。荒井さんの絵本や書籍は、一言では言い尽くせない魅力であふれています。本展では、100冊以上の絵本・書籍のなかから、代表的な作品の原画をご紹介します。青と赤の2つの気球、窓から顔を出す人、小さな家々など、文字がない原画ならではの発見をお楽しみください。

●見どころ2 新作絵画や立体作品による会場構成



《流れ星スパーク奏でよギター》
2022、個人蔵

「越える」を意味する「meta (メタ)」のタイトルを用いて、2010年に初作品集『meta めた』(フォイル)を刊行し、絵本作家と語られる自らを超越する、あらたな活動をはじめた荒井さん。各地での作品展示に加え、郷里・山形を舞台とした「荒井良二の山形じゃあにい」、「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ」の芸術監督、震災後の東北をめぐる活動など、場所やジャンルを超えた創作の旅を続けています。新作絵画に加えて、大分県の公園に設置されたオブジェ《マッテルモン》《たいようをすいこむモン》のスケッチや、「山形ビエンナーレ 2018」で発表された《山のヨーナ》の立体物を再構成し、展示室全体を使って荒井さんの創作の現在地を伝えます。



《マッテルモン》《たいようをすいこむモン》
を制作中の荒井さん
(提供：NPO 法人大分ウォーターフロント研究会)

●見どころ3 旅する新作インスタレーション



展示のさいごでは、新作の立体インスタレーション《new born 旅する名前のない家たちを ぼくたちは古いバケツを持って追いかけて 湧く水を汲み出す》を発表します。こども一人一人がひとつの家となり、展示室に点在する小さな家々は、それぞれに物語を内包しながら旅をしていきます。家の素材や、電球やスケッチなど細部の設え、また、形態から読み取れるこどもたちの物語を想像しながら、会場をゆっくり巡ってみてください。

協力：宮本武典、積水ハウス株式会社

※本作は、積水ハウスのゼロエミッションの一環として、同社から提供された建築廃材で制作されました。

new born 荒井良二

いつも しらないところへ たびするきぶんだった

作家略歴



Photo: Kohei Shikama / 写真: 志鎌康平

荒井良二（あらい・りょうじ）

1956 年山形県生まれ。『たいようオルガン』で JBBY 賞を、『あさになったのでまどをあけますよ』で産経児童出版文化賞・大賞を、『きょうはそらにまるいつき』で日本絵本賞大賞を受賞するほか、2005 年にはアジアで初めてアストリッド・リンドグレーン記念文学賞を受賞するなど国内外で高い評価を得る。2012 年 NHK 連続テレビ小説「純と愛」

のオープニングイラストを担当。ライブペインティングやワークショップのほか、作詞・作曲やギターも演奏するなど音楽活動も行っている。2018 年まで「みちのおくの芸術祭山形ビエンナーレ」の芸術監督を務め、さらにその活動の幅を広げている。

広告記事等掲載時に使用する短文テキスト例

100 字

旅をするような気分で日々作品を生み出してきた荒井良二さんのジャンルを問わない表現の現在地を、絵本原画、新作のインスタレーション、絵画、スケッチ、立体作品から私蔵のガラクタまで織り交ぜながら紹介します。

50 字

荒井良二さんのジャンルを問わない表現の現在地を、絵本原画に加えて、新作のインスタレーション等で紹介。

20 字

荒井良二さんの新作や絵本原画等約 300 点

new born 荒井良二

いつも しらないところへ たびするきぶんだった

掲載図版／チケットプレゼント申込書

FAX : 046-845-1215 横須賀美術館行き

本展覧会の掲載図版ならびにチケットプレゼント用招待券（ペア 10 組分／20 枚）をご希望の方、下記へご記入の上 FAX にてご請求ください。必要な図版に ☒ をつけてください。

	
☐ 新作《new born 旅する名前のない家たちを ぼくたちは古いバケツを持って追いかけて 湧く 水を汲み出す》制作風景	☐ 新作《流れ星スパーク奏でよギター》 2022 年、個人蔵
	
☐ (荒井良二肖像写真) ※トリミング可 Photo: Kohei Shikama / 写真：志鎌康平	☐ 『あさになったのでまどをあけますよ』原画 2011 年、個人蔵

必ずご記入ください⇒ 貴社名 TEL.

貴誌（紙）名 ご担当者様お名前

メールアドレス（画像データ送付先）

ご要望事項（サイズ・解像度など）

チケットプレゼント用招待券 ☐ 希望する ☐ 希望しない

ご住所（チケット送付先）